

“V给”文の意味特徴に関する考察

関 光世

(京都産業大学非常勤講師)

現代汉语の“给”字句根据“给”字出现的位置分为三种句式，还有一部分动词不借助“给”字，并直接带两个宾语表示给予。一般认为一个动词能够成的几种句式如“我寄给他一个包裹。”和“我给他寄一个包裹。”表示一个意思。同时认为“我送他一本书。”是“我送给他一本书。”的压缩形式，“给”是任意的。

本文以包含“动词+给”格式的句式为主要对象，采用认知语言学的句式观与同一个动词所构成的其他句式进行比较，试图说明该句式中的“给”具有一定的语义功能，同时说明该句式的整体意义。另外，本文对在给予事物前置的句子中更加要求动词后加“给”的现象，从语法和语用两个方面论证其理由。

0. はじめに
1. 先行研究
2. “给”の意味機能と“V给”文の意味特徴
 - 2.1. 動作・行為の特定化
 - 2.2. [到達]をめぐって
 - 2.3. 「終点」と「目標」
 - 2.4. “V给”文における事態の把握
3. P前置型構文と“V给”
 - 3.1. Pの前置と“给”の付加
 - 3.2. P前置型構文と“V给”
 - 3.3. 情報伝達から見た“V给”
4. まとめ

0. はじめに

よく知られているように、“给”を含む中国語の授与表現にはその出現位置によって3種類の文型が存在し、さらに一部の動詞は“给”なしでも二重目的語を伴って事物の授与を表すことができる。また、ある動詞が構成

可能な文型は一種類とは限らず、どの文型が成立可能であるかは動詞によって異なる。

これまで、ある動詞が構成可能な複数の文型は「同じ意味」を表すとされ¹⁾、その意味の違いや文型の選択に関わる要素について深く論じられることは少なかった。

本論は<動詞+給>の構造を含む文型（以下“V給”文）を取り上げ、同一の動詞で成立可能な他文型との比較をとおして“給”の有無やその出現位置の違いが文全体にもたらす意味の違いを観察し、“V給”文における“給”の意味機能と文全体の意味特徴を明らかにしようとするものである。さらにそれらを踏まえて、“把…”構文や“是…的”構文など「与えられる事物」が動詞に前置された構文では動詞に“給”を付加する傾向が強まる理由について、文法と語用論の両面から説明を試みる。

1. 先行研究

朱德熙 1979によると“V給”文を構成するのは“卖”類、“寄”類及び“写”類など[与える]という意味特徴を備える動詞であり、そのうち本来的に[与える]意味を備える“卖”類動詞と、そうでない“寄”類及び“写”類動詞²⁾は、他文型³⁾の成立という点で異なる振る舞いを見せる。その関係を整理すると下表のようになり、“V給”文を共通項として相補的な関係にあることがわかる。尚、表中のRは事物の受領者(recipient)、Pは与えられる事物(patient)を表す。

文型	A (V+R+P)	B (“V給”文)	C (給+R+V+P)
“卖”類動詞	我卖他一本书。	我卖给他一本书。	_____
“寄”類動詞	_____	我寄给他一个包裹。	我给他寄一个包裹。
“写”類動詞	_____	我写给他一封信。	我给他写一封信。

“給”をめぐる研究において文型Aは[“V給”文の短縮形]⁴⁾(朱 1979、沈 1999)、「動詞が“給”の力を借りずに事物の授与を表す構文」(張 1999)などと位置付けられてきた。また“卖”類動詞が構成する“V給”文の“給”は「あっても無くても良い任意(optional)の要素」⁵⁾であるというのが一般的な認識である。

しかし施美滄 1981 や李臨定 1986 らは、この“給”を任意の要素としながらも、「与える意味を強める」働きや「与える意味と受領者をさらに明確にし、浮き立たせる」働きがあると述べている。これらは彼らがネイティブスピーカーとして“給”に一定の意味機能を認め、その有無によって文全体に意味的な相違が生じると直感することを指摘したものであるが、いずれも十分な論証はなされていない。

さらに以下の実例を参照されたい。

- (1) 杨重过来递给于观一枝烟。《你》 → ? 杨重过来递于观一枝烟。
- (2) 你这手上的戒指，也不是他送给你的么？《雷》
→ ? 你这手上的戒指，也不是他送你的么？
- (3) 马威把一碗凉水递给父亲。《二》 → ? 马威把一碗凉水递父亲。

中川 1973 でも指摘されているように⁶⁾、例 (1) の如く R が固有名詞である場合、“給”を省略すると文の成立は難しくなる。また P が前置された文において“給”を省略すると不自然だと指摘するインフォーマント⁷⁾ もおり、少なくとも上の 3 例において“給”は「あっても無くても良い」とは言えない。

また、“寄”及び“写”類動詞で成立可能な 2 文型の変換にも制限のあることが知られている。

- (4) 我给他写信。 → *我写给他信。
- (5) 我给他写了一封信。 → *我写了给他一封信。

以上は“V 给”文における“給”が一定の意味機能を持ち、またこの文型が他文型とは異なる意味特徴を備えている可能性を強く示唆するものである。

沈家煊 1999 は、文の形式の違いは私たちの事態に対する捉え方即ち事態把握の仕方を反映したものであるという認知言語学的構文観⁸⁾ に立って“給”を含む文型の意味特徴を考察した。

例えば客観的には「一冊の本」(ひとつの小包)が「私」から「彼」に移

動するという全く同一の事態を表す“我卖他一本书。”と“我卖给他一本书。”、“我给他寄一个包裹。”と“我寄给他一个包裹。”における“给”の有無やその出現位置の違いは、同一の事態のうちどこに認知的な際立ちを置くか、といった事態把握における違いを反映していると考えるのである。

沈文は、“V给”文で“V给R”が隣接しているのは、事物の移動と到達がひとつの連続した過程として捉えられているからであり、また“给R”が動詞の後に位置するのは、Rが動作の終点(destination)であると認識されていることを示していると説明し⁹⁾、その上で“V给”文の意味特徴を“惠予事物转移并达到某终点, 转移和达到是一个统一的过程”(与えられる事物が移動して終点に到達する、移動と到達がひとつの連続した過程である)と定義づけた。ここではこの説明を支持し、他文型との比較に進みたい。

2. “给”の意味機能と“V给”文の意味特徴

2.1. 動作・行為の特定化

まず以下の2文型を比較されたい。

文型A:

- 1 我送他一本书。
- 2 我送他_____。
- 3 我送__一本书。

文型B:

- 1 我送给他一本书。
- 2 我送给他_____。
- 3* 我送给__一本书。

文型Aと文型Bの構造上の違いは“给”の有無のみである。Aでは“他”(3では“一本书”)は動詞“送”と直接に文法関係を結んでその目的語となっているが、Bでは“给”を介して間接的に目的語となっている。換言すれば“他”は“给”と直接的な文法関係を持っていると言える。このことは、Aでは“他”と“一本书”のいずれを省略しても文は成立する(2は多少意味の明確性を欠くが成立は可能)が、Bでは“一本书”を省略することはできても“他”を省略することはできないことから伺える¹⁰⁾。またB-3のみが成立しないことは、“给”が強くRを要請する性質を持つことを示している。

さらに以下の実例を参照されたい。

- (6) 你去跟那个老婆子说说, 说好了, 我送给你一袋子白面! 《茶》
 (7) 温都太太…, 赶紧递给马威一碗茶, 跟着说: “茶真香!” 《二》
 (8) “姑娘, 我送您几句话, 不收钱。” 《你》
 (9) 祥子的脸红得像生小孩时送人的鸡蛋。(老舍《骆驼祥子》)

例(6)(7)のような文型BはRに人称代名詞と固有名詞のいずれをも容認するが、文型Aでは固有名詞のRはほとんど見当たらない。一方例(9)のような不特定の“人”をRにして一般化された行為を表す用法は、文型Bには見当たらない。

ここまでの観察をまとめてみる。

R	文型 A	成立可否	文型 B	成立可否
Φ	送 礼物	○	送给 礼物	×
人	送人礼物	○	送给人礼物	×
他	送他一件礼物	○	送给他一件礼物	○
马威	送马威一件礼物	×	送给马威一件礼物	○

文型AはRを省略しても文は成立し、不特定の“人”も受け入れるのに対し、固有名詞に対する許容度は極めて低い¹¹⁾。一方文型BはRを省略すると成立せず、不特定の“人”も受け入れないが、人称代名詞と固有名詞は共に受け入れる。文型BでRが不特定の人物を表す例は未見である。

動詞に“给”が付加されると、事物の受領者は不可欠の要素となるばかりでなく、特定の人物であることを強く要請される。これは“给”に動作・行為を現実特定の相手に対してなされた特定の行為に限定する働きがあるためだと考えることができる。

“V给”文は専ら特定の人物に対する特定の動作・行為を表す文型であると言えるだろう。

2.2. [到達] をめぐって

“我送给他一本书。”で“他”が“送”ではなく“给”と直接的な文法関係を持つならば、両者は意味的にも直接的な関係があると考えられる。

以下の3文についてインフォーマントに聞いたところ、(10)と(11)は成立しないと判断された¹²⁾。

- (10) *我曾经给她一件毛衣, 她不收。
 (11) *我曾经送给她一件毛衣, 她不收。¹³⁾
 (12) 我曾经送她一件毛衣, 她不收。

1で述べた沈文の説明に従えば、例(11)では事物の移動と到達がひとつの連続した過程であるので、セーターはすでに彼女に「到達」していなければならず、「受け取らなかった」という後の節と矛盾するために成立しないと説明できる。“給”の[与える]という原意を考えれば、例(10)が不成立とされたのも同じ理由だと推測できる。すると例(12)は逆に“送”だけではセーターが彼女に到達したかどうかは確定されないため、後の節でそれが不成立であったことを示されても非文にはならないと説明することができる。つまり文型Aでは事物が受領者に到達したか否かについては文法的には中立で、最終的には文脈によって決定されていることになる。

時制に関する情報が無い場合に已然の事態として理解されるか、未然の事態として理解されるか、という点もこの観点を支持する傍証となるだろう¹⁴⁾。

- (13) 因为他不知道校长室送给他怎样的聘约。《围》
 (14) “你和杨金挺熟？”老邱递给我一支烟。《橡》

上の2例は時制に関する情報が無いにも関わらず、動作・行為はすでに実現しており、事物はすでに受領者に到達していると理解されるのが自然である。“給”の付加によって動作・行為がすでに実現したと理解される傾向が強まるのである。一方次の例ではいずれも動作・行為がまさに今実現しようとする状況にあることが読み取れる。

- (15) “那日见了我, 说是我的崇拜者, 硬要我送他一本书”
 (贾平凹《废都》)

(16) “我送你一样东西，我以前答应送你的。”（巴金《家》）

(17) “燕燕，王爷爷上次答应的，送你一支日本圆珠笔，给！”

（湛容《燕燕的作文》）

“给”の有無による以上のような意味の相違から、“V给”文における“给”には事物の受領者への到達を顕在化する働きがあり、“他”が“给”と直接的な文法関係を持つことによって与えられた意味とは即ち事物の受領者への「到達」であると言えるのではないだろうか。

しかし“V给”文が例外なく事物の受領者への「到達」を表すと言い切ることはできず¹⁵⁾、この点についてはなお考察の余地があると考ええる。

2.3. 「終点」と「目標」

まず以下の2文型を比較されたい。

文型B：我寄给他一本书。

文型C：我给他寄一本书。

沈文は、文の成分が排列される順序は現実の世界で事態が生ずる順序を反映するという「時系列の原則」を用いて上の2文型の違いを説明している。それによると、事態が生じた順序は文型Bでは“寄”→“给他（一本书）”、文型Cでは“给他”→“寄一本书”となる。従ってBにおいて“他”は動作・行為が行われた結果到達する終点と認識されているのに対し、Cでは行動を起す前に立てる目標として認識されていると言える¹⁶⁾。事物の授与という行為が目標とするのは事物の到達先である。つまり“给R”を動詞の前に置くという行為は、動作の仕手がこれから起す動作・行為について、その到達先を予め設定することに他ならない。この2文型の違いは動作・行為の終点Rが現実のものとして認識されているのか、仮想のものとして認識されているのかにあると言える。

そのため文型Cは個性や現実性が希薄なPをも受け入れるという特徴がある。

以下の例を参照されたい。

(18) “给艾克打电报。”“上将”满不在乎地说，…。《你》

(19) 我悻悻地给阿眉写信，…。《空》

上の例では“电报”や“信”の現実性や個別性は特に必要とされず、「電報を打つ」「手紙を書く」という一種の行為タイプ¹⁷⁾として用いられ、表現の重点は行為そのものにある。

さらに以下の例を参照されたい。

(20) 早早儿起来，别叫老马跑了！起来用凉水洗洗脸，给楼下老太太写个字条儿，…。《二》

(21) 白太太的丈夫死了，黑太太给她写封安慰的信，好了，忙！

《二》

例(20)の“字条儿”は明日の朝書こうと思っている（まだ書いていない）メモであり、例(21)も現実の手紙のやり取りについて述べているのではなく、習慣的行為を客観的に述べているに過ぎない。

2.4. “V 给”文における事態の把握

これまでの議論をまとめると、“V 给”文における“给”はRを特定の受領者に限定すると同時に動作・行為を特定化し、また事物の受領者への「到達」を顕在化する機能を持つとすることができる。「事態に対する把握の仕方」という観点から見れば、この文型は「動作の仕手から受領者への事物の移動」という事態のうち、事物の受領者に強い関心を寄せていることが伺え、換言すれば“V 给”文は受領者に認知的な際立ちが与えられている文型であるということになる。

3. P前置型構文と“V 给”

“把…”字構文や“是…的”構文を用いて事物Pの授与を表す時、Pは動詞の前に位置する。このような構文（以後P前置型構文）においては、動詞に“给”を付加する傾向が強い¹⁸⁾。この現象はこれまでも指摘されているが、その理由については語用論的な説明にとどまっている¹⁹⁾。

